

小学校における指導力不足が疑われる 教諭に関する考察

——未認定事例の特徴と課題——

田 実 潔
田 辺 毅 彦

小学校における指導力不足が疑われる教諭に関する考察

——未認定事例の特徴と課題——

田 実 潔 田 辺 毅 彦

目次

1. はじめに (問題の所在)
2. 本研究の目的
3. 方法
4. 結果
5. 考察
6. まとめ (今後の課題)

〔要旨〕

指導が不適切である教諭については教育現場においてもその定義や理解は進んでいるが、認定されるほどではないものの教諭としての教育活動に支障をきたしている未認定事例についてはほとんど報告がなされていない。本研究では、学校特に小学校における未認定事例を、学生への聞き取り調査の結果から明らかにし、中学校や高校における未認定事例と比較検討することで、小学校における未認定事例の独自性と課題について分析検討することとした。聞き取り調査の結果、小学校での未認定事例では、中学校や高校に比べて暴言や暴力要因と関連すると見なされる事例が少なくなかった。また、中学校や高校では、教科指導に関して問題となる事例が多かったが、小学校では教科指導そのものが問題になるケースはほとんど無く、小学校における特徴であることが示された。小学校における指導力不足教員や未認定事例では、具体的事例を検討する中で、教育的愛情に基づくコミュニケーション能力や受容的で共感的な児童との人間関係構築能力が求められることが改めて示された。その結果を受けて、大学での教職課程においても、それらの諸能力を養うことが求められることとなり、多様な教育臨床経験を保障することと同時に、大学教員自らが教職を目指す学生と授業のみならず日常的にも良好なコミュニケーション関係や受容的共感的関係を構築していくことが今後の課題である。

1. はじめに

小学校や中学校、高等学校における教諭には、児童生徒への教育的責任を遂行するために、教科指導における高度な専門性および適切な生徒指導等ができるよう資質や能力などが強く求められている。これらの専門職である教諭に求められるものは、個人的なスキルや力量としての枠組だけで語られるものではなく、昨今文科省も求めているチーム学校としての集団性構築能力や集団指導力をも含むものである。しかし、近年、教諭としての高度な専門性（知識や技能等）が充分担保され

ていない教諭や、教諭としての人間性（包容力や人間関係構築能力、使命感等）に課題があり、その結果、児童生徒を適切に指導できなかったり、同僚教諭や保護者とも信頼関係を築くことが難しい教諭が一部に存在することが報告されるようになってきた^{1), 2)}。これらの指導が不適切である教諭、いわゆるM教諭については、文部科学省が平成19年（2007）に「教育職員免許法及び教育公務員特例法に一部を改正する法律について（通知）」において、具体例を示している。これらを参考にしつつ、各教育委員会にて規則等で定める手続きに従い、個々のケースに則して適切

キーワード：小学校，指導力不足教員，未認定事例

に判断すること、としている。また、「指導が不適切である」との認定に至らない者についても、児童生徒等に対する十分な教育上の配慮を行った上で、教育委員会として必要な支援策を講じるとともに、管理職等からの指導、助言を行い指導の改善を図ることが求められている。このような未認定教諭については、処分対象とならないことからその実態は明らかではないのが実情である。未認定教諭が発生する背後には、認定に至までの経緯として、校長等管理職による調書の作成と地区教育委員会への申請を経なければならないが、実際問題として「調書作成・申請しても手続きが面倒」とか「申請しても地区教育委員会での受理が困難」との考えもあるようである³⁾。また、中教審も平成17年(2005)の答申「新しい時代の義務教育を創造する」において「教育の質の向上」を「国家戦略の一つ」と位置づけ、能力主義教員評価の導入とともに指導力不足教諭について言及しているが、問題をはらみつつも未認定となっている教諭については、触れられていない。

このように、明確に指導力不足と認定されてはいないが、児童生徒や保護者、同僚教諭間で様々な問題を有している未認定と思われる教諭については、それぞれの背景となる事情は推測できるものの、やはり教育的責任の遂行という点において看過できないものであると思われる、少なくともその実態についてはある程度明らかにする必要があるのではないかと考えた。特に、人格形成において大切な時期である小学校時代の6年間は、その後の児童の成長に多大なる影響を与える時間であり、未認定であったとしても指導力不足を問われかねない教諭の存在については、検証する必要性が大いにあるものと考えている。

2. 本研究の目的

以上のような問題意識から、本研究では小

学校と中学校、高等学校における未認定事例と思われる事例を明らかにし、中学校や高等学校との比較から、小学校における未認定事例の特徴と課題について知見を得るものとする。

事例データの収集については、本学で教職課程を履修し大学卒業後の教職を希望している学生への聞き取りから得ることとした。聞き取りについては、その質問項目を Table 1 に示したが、学生には、答える際には個人情報(出身校名や事例となる教員名等々)を一切明らかにしないでよいこと、事例データの取扱いには本研究以外には用いないこと、収集したデータ(紙媒体)は鍵のかかる部屋において厳重に管理していること、等個人情報保護に基づいた説明を行った。

3. 方法

大学の教職課程を履修している学生を対象に、授業の中で質問紙を配布し自由記述で回答を得ることとした。質問の項目は以下の通りである。なお、対象学生は授業の中で、指導力不足教諭についての講義を受けており、一般的なイメージされている指導力不足教員とは若干異なるであろう専門的観点からの知識を習得した後での調査であった。具体的には、指導力不足教諭についての講義終了後に調査用紙を配布し、回答にあたっての注意事項(個人情報の保護や守秘義務等々)について口頭で説明した後、無記名で記入してもらいその場で回収したものである。Table 1に、聞き取りの質問項目を挙げた。

Table 1 質問項目

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. あなたの性別は？ 2. 小学校から高等学校までに間、指導が不適切であると思われる教諭に出会ったことがありますか？ 3. 出会ったことがある場合、具体的にどのような行為を不適切であると思いましたか？ |
|---|

4. 結果

得られた全回答数118（男子学生数は55名，女子学生数は68名）のうち，小学校から高校までに間にM教諭未認定事例が疑われると思われる教諭に出会った数は93名（78.8%）で，うち小学校では32名（27.1%）であった。ちなみに中学校では28名（23.7%），高校では33名（27.9%）と学校間での大きな差はみられなかった。小学校，中学校，高校を通じてM教諭未認定事例と思われる教諭に出会わなかった数は25名（21.2%）であった。Table 2に結果を示した。

Table 2 過去M教諭と出会った学生の人数

出会った時代	人数(名)	割合
小学校時代	32	27.11%
中学校時代	28	23.73%
高校時代	33	27.97%
出会わなかった	25	21.19%

n = 118 (Male = 55 Female = 68)

質問3の自由記述回答について，すべての記述データから，共通するキーワードを抽出し不適切と思われる行動について分析を行った。抽出したキーワードは，

「暴力」（未認定M教諭の問題行動が暴力を伴う）

「暴言」（未認定M教諭の問題行動に暴言が伴う）

「教科指導」（未認定M教諭の問題行動が授業内で見られる）

「学級運営」（未認定M教諭の問題行動が学

級内で見られる）

「生徒関係」（未認定M教諭の問題行動が生徒との関わりの中で見られる）

「社会性」（未認定M教諭の問題行動が反社会性を伴う）

「モラル」（未認定M教諭の問題行動が道徳的問題を含む）

「人格」（未認定M教諭の問題行動が性格から影響している）

「性質」（未認定M教諭の問題行動がM教師としての性質に関係している）

の9ワードである。

これらのキーワードは，単独要因であるが，未認定事例を検討するとき，いくつかの場面や要因などが複合的に連関したケースもあることから，未認定事例として収集したデータを，9×9の45要因に分析して，未認定事例の傾向を検討することとした。45要因はTable 3に示した。

これらの45要因に基づき，未認定事例に関するデータを分類・分析した結果の当てはまる要因は以下の通りである。

1) 小学校での事例

女子学生からの聞き取り結果

2. 暴力×人格

4. 暴力×社会性

5. 暴力×生徒関係

6. 暴力×学級運営

17. 暴言×暴言

18. 教科指導×性質

23. 教科指導×学級運営

Table 3 未認定事例分析のための要因

	暴力	暴言	教科指導	学級運営	生徒関係	社会性	モラル	人格	性質
性質	1. 暴力×性質	10. 暴言×性質	18. 教科指導×性質	25. 学級運営×性質	31. 生徒関係×性質	36. 社会性×性質	40. モラル×性質	43. 人格×性質	45. 性質×性質
人格	2. 暴力×人格	11. 暴言×人格	19. 教科指導×人格	26. 学級運営×人格	32. 生徒関係×人格	37. 社会性×人格	41. モラル×人格	44. 人格×人格	
モラル	3. 暴力×モラル	12. 暴言×モラル	20. 教科指導×モラル	27. 学級運営×モラル	33. 生徒関係×モラル	38. 社会性×モラル	42. モラル×モラル		
社会性	4. 暴力×社会性	13. 暴言×社会性	21. 教科指導×社会性	28. 学級運営×社会性	34. 生徒関係×社会性	39. 社会性×社会性			
生徒関係	5. 暴力×生徒関係	14. 暴言×生徒関係	22. 教科指導×生徒関係	29. 学級運営×生徒関係	35. 生徒関係×生徒関係				
学級運営	6. 暴力×学級運営	15. 暴言×学級運営	23. 教科指導×学級運営	30. 学級運営×学級運営					
教科指導	7. 暴力×教科指導	16. 暴言×教科指導	24. 教科指導×教科指導						
暴言	8. 暴力×暴言	17. 暴言×暴言							
暴力	9. 暴力×暴力								

- 26. 学級運営×人格
- 29. 学級運営×生徒関係
- 30. 学級運営×学級運営
- 32. 生徒関係×人格
- 33. 生徒関係×モラル
- 43. 人格×性質
- 44. 人格×人格
- 45. 性質×性質

男子学生からの聞き取り結果

- 5. 暴力×生徒関係
- 6. 暴力×学級運営
- 14. 暴言×生徒関係
- 16. 暴言×教科指導
- 18. 教科指導×性質
- 24. 教科指導×教科指導
- 26. 学級運営×人格

- 29. 学級運営×生徒関係
- 32. 生徒関係×人格
- 33. 生徒関係×モラル
- 44. 人格×人格

これらの未認定事例と思われる具体的記述結果を Table 4 に示した。

2) 中学校で事例

女子学生からの聞き取り結果

- 5. 暴力×生徒関係
- 7. 暴力×教科指導
- 11. 暴言×人格
- 12. 暴言×モラル
- 14. 暴言×生徒関係
- 19. 教科指導×人格
- 22. 教科指導×生徒関係

Table 4 小学校における未認定事例

女子学生	男子学生
<p>2. 暴力×人格 怒ると叩く、蹴る (少年団活動中) バインダーで生徒の頭を思いっきり叩く 怒ると児童の注目を引くため、机を蹴り上げる 怒って黒板を殴る、ゴミ箱を蹴り飛ばす</p> <p>4. 暴力×社会性 ペーパーナイフを児童の首元にあてる (年配男性)</p> <p>5. 暴力×生徒関係 教科書の角で頭を殴る</p> <p>6. 暴力×学級運営 私語をしている児童にチョークを投げつける</p> <p>17. 暴言×暴言 暴言を吐く</p> <p>18. 教科指導×性質 学校に来なくなり、授業進度が遅れる</p> <p>23. 教科指導×学級運営 私語がうるさい児童を注意しない</p> <p>26. 学級運営×人格 時間に厳しく、掃除が時間内に終了しないと次の日の給食は食べないと言う 問題発生時に、当事者双方の意見を聞かずに怒り、独断で処罰する (当事者の親に電話) 物を大切にするように指導し、自らはしないという矛盾がある</p> <p>29. 学級運営×生徒関係 児童間でも名字+「さん」付けを強制する (親の苦情により解雇) 娘の卒業式に出なかったと卒業式に言う 転校してきた児童に対して、クラスに馴染めないのはその生徒のせいだと言う 特定の女子児童を気に入り、テスト回収 (終了時刻) もその児童に合わせる (小6担任) ひいきを児童に指摘され、それを他の児童によるいじめと捉え、その児童に謝罪させた</p> <p>30. 学級運営×学級運営 児童が掃除をしている時に教室で寝る</p> <p>32. 生徒関係×人格 お気に入りの児童には甘く、そうではない児童には厳しくする 自分の考えを押しつける 大声で怒鳴る 差別する 児童の話聞いて、ひどく勘違いをする (年配男性) 気分によって態度が変わる</p> <p>33. 生徒関係×モラル 仲の悪い教師の悪口を生徒に言う</p> <p>43. 人格×性質 他の教師と不仲である</p> <p>44. 人格×人格 気分屋である 人によって態度を変える</p> <p>45. 性質×性質 児童の親から嫌われる</p>	<p>5. 暴力×生徒関係 児童に馬鹿にされて暴力を振るう 教科書の角で頭を殴る</p> <p>6. 暴力×学級運営 児童に馬鹿にされ、児童の胸ぐらを掴み、黒板に押しつけながら怒鳴りつける</p> <p>14. 暴言×生徒関係 他のクラスの悪口を言う</p> <p>16. 暴言×教科指導 回答することが出来なかった児童に対して「馬鹿じゃないのか」と言う</p> <p>18. 教科指導×性質 授業終了20分前に入室する</p> <p>24. 教科指導×教科指導 一方的な授業をする (板書のみ・質問は受け付けない)</p> <p>26. 学級運営×人格 学習発表会に熱が入り過ぎ、練習中にいなくなり、謝罪にきたクラス全員に説教する クラスで起きた問題の解決をしない (小6)</p> <p>29. 学級運営×生徒関係 児童に上下座をさせられる クラス内の男・女子児童の喧嘩が絶えない 嫌いな児童に廊下に出るように指示し、授業も廊下から受けさせる (3・4年担任) 嫌いな児童のいる班は掃除や unnecessary 反省文を書かせる (3・4年担任)</p> <p>32. 生徒関係×人格 男女差別をする (50代・女性) 児童を叱るのではなく、児童に怒る えこひいきをする 男子に厳しく、女子に甘い</p> <p>33. 生徒関係×モラル 合唱練習の時に女子児童にやたらと接触しながら指導する (セクハラ疑惑をかけていた) 児童へのボディタッチが激しい 女子児童の頭を執拗に撫でる</p> <p>44. 人格×人格 感情的になる</p>

24. 教科指導×教科指導

26. 学級運営×人格

32. 生徒関係×人格

33. 生徒関係×モラル

42. モラル×モラル

男子学生からの聞き取り結果

5. 暴力×生徒関係

9. 暴力×暴力

19. 教科指導×人格

24. 教科指導×教科指導

32. 生徒関係×人格

45. 性質×性質

Table 5 に中学校での未認定事例の具体的な記述内容を示した。

3) 高校での事例

女子学生からの聞き取り結果

8. 暴力×暴言

19. 教科指導×人格

22. 教科指導×生徒関係

23. 教科指導×学級運営

24. 教科指導×教科指導

29. 学級運営×生徒関係

32. 生徒関係×人格

33. 生徒関係×モラル

35. 生徒関係×生徒関係

38. 社会性×モラル

45. 性質×性質

男子学生からの聞き取り結果

5. 暴力×生徒関係

18. 教科指導×性質

19. 教科指導×人格

Table 5 中校における未認定事例

女子学生	男子学生
5. 暴力×生徒関係 ゲーで生徒の頭を殴る	5. 暴力×生徒関係 体罰を加える (部活指導)
7. 暴力×教科指導 感情に流されて体罰を加える (体育)	体罰 (暴力を振るう・体を強く押す・殴る) をする (部活指導)
11. 暴力×人格 すごく小さなことでありえないくらい怒鳴り、暴言を吐く (吹奏学部副顧問・男性)	9. 暴力×暴力 体罰をする
12. 暴力×モラル 思春期の生徒を暴言により刺激する (吹奏楽部副顧問・男性)	19. 教科指導×人格 指導力が伴わないが熱心であり、生徒から慕われていない わかりやすい授業を要望した生徒 (クラス) に対して、申し出を却下し、当たり散らす
14. 暴力×生徒関係 生徒が反撃出来ないように言葉で攻撃する	24. 教科指導×教科指導 ALTと英会話が成立しない (英語) 教科に対する知識がない 教科への愛がない
19. 教科指導×人格 授業時間を自ら潰し、テスト前にイライラする 会話をしてくる印象の良い生徒には良い評価を与える (体育)	独りよがりな授業をする 生徒の質問に答えることが出来ない 間違ったことを教える つまらない授業をする 授業がわかりにくい
22. 教科指導×生徒関係 成績で生徒を評価する 公開処刑のような授業をする (ぜんそくを起こす生徒もいた) 生徒の誤答に対して、その生徒を精神的に追い込むように叱る	全部の問題を生徒に解かせる 生徒が回答しない場合は、その問題を解答せず、他のクラスの人のノートを見るように指示する 指導力不足である (英語)
24. 教科指導×教科指導 自分の恋人の話をし続ける 無言で多量の板書を行い、板書をしている生徒を無視し、説明を始める 他クラスとの進度の差によるテストへの影響に関する生徒の意見を無視する 実力が付かず、模試で点数がとれない 授業がわかりにくい 自分の考えを生徒に押しつける 教え方が下手である 生徒のレベルに合った授業が出来ない 予習で完璧を求める 真剣に授業を聞いてもわからない	主観が見える授業や評価 ただ板書をする 説明の内容が薄い 高レベルの説明のみをし、生徒のレベルに合わせた説明が出来ない 雑談で授業を潰す
26. 学級運営×人格 特定の生徒をひいきする 同じ事をしていても特定の生徒だけ叱る 成績によって特定の生徒をひいきする	32. 生徒関係×人格 差別 (部活指導) 男女差別 (部活指導)
32. 生徒関係×人格 練習メニューを生徒別にしていたので、M教師のレッテルが貼られる (部活指導) 生徒を差別する 生徒に2年間に渡る部活の勧誘を断られて、その生徒の内申点を下げる (音楽・合唱部)	45. 性質×性質 女子更衣室を盗撮したという噂が絶えない 清潔感がない (髪は肩まで伸び、髭や鼻毛も伸び放題、悪臭を放つ) (男性)
33. 生徒関係×モラル 気に入る生徒に気に入らない生徒とその親の悪口を言う (部活指導) (中3・新任)	
42. モラル×モラル 明確な理由なしに数人の女子生徒の楽器を無許可で吹く (吹奏楽部副顧問・男性) テニス部の女子生徒の写真を車内に貼る 児童ポルノ画像所持により逮捕される (国語)	

- 22. 教科指導×生徒関係
- 24. 教科指導×教科指導
- 32. 生徒関係×人格
- 33. 生徒関係×モラル
- 37. 社会性×人格
- 43. 人格×性質
- 45. 性質×性質

Table 6 に高校での未認定事例の具体的記述内容を示した。

未認定事例要因として45要因を抽出したが、小学校未認定事例では全45要因のうち、2. 暴力×人格、4. 暴力×社会性、5. 暴力×生徒関係、6. 暴力×学級運営、14. 暴言×生徒関係、16. 暴言×教科指導、17. 暴言×暴言、18. 教科指導×性質、23. 教科指導×学級運営、24. 教科指導×教科指導、26. 学級運営×人格、29. 学級運営×生徒関係、30. 学級運営×学級運営、32. 生徒関係×人格、33. 生徒関係×モラル、43. 人格×性質、44. 人格×人格の17要因が該当した。暴力や暴言に関連す

Table 6 高校における未認定事例

女子学生	男子学生
<p>8. 暴力×暴言 言葉の暴力をする (部活指導)</p> <p>19. 教科指導×人格 生徒に声の小ささを指摘され、生徒に良く聞くようにと聞き直って支持する (倫理) 授業のレベルに関する生徒の要望を一切聞き入れない 授業中はほとんど話している 全力で授業をしない 教える気が何もない (顔・表現・教え方) (化学Ⅱ) TAが3人いる授業で、その一人がいつも寝ている</p> <p>22. 教科指導×生徒関係 生徒の意見を聞かない テスト返却時に一部生徒の点数を読み上げる</p> <p>23. 教科指導×学級運営 生徒と口論になり、授業が進まない</p> <p>24. 教科指導×教科指導 指導力不足である (英語・50代男性) 解説がない (英語・50代男性) 文法の説明がない (英語・50代男性) 偏差値の異なる以前勤務していた高校の授業をそのままする 授業のレベル設定が出来ない 有料で開講した講習も自習や休講にし、振り替えもしない 授業がわかりにくい (化学Ⅱ) ワークの解答と異なる誤答を板書し、生徒の指摘するも、答えが導き出せない (化学Ⅱ) 授業外で直接質問をしても教科指導をしない (化学Ⅱ) 質問に対する答えがいつも返ってこない (英語) 指導内容がめちゃくちゃでいつも生徒に指摘されている (英語) 意味のないことを語り、意味のない授業を展開する (英語) 教科書をただ読み、質問は受け付けない (上記19のTAが一人で担当する検定のための授業)</p> <p>29. 学級運営×生徒関係 男尊女卑をする 可愛くてきれいな女子生徒、学力が高く、良い大学を目指す生徒はひいきする</p> <p>32. 生徒関係×人格 頭ごなしに生徒の意見を否定する 気分により態度がコロコロ変わり、生徒に八つ当たりをする 生徒に偏見を持つ 生徒の意見に耳を傾けない 生徒へのもの凄いや圧力の有無を言わせない 何もしてくれない 生徒に無関心である 生徒に興味がない 生徒とコミュニケーションがとれない 生徒に自分の話を一方的に押しつける (男女) 差別をする 生徒によって注意したりしなかったりする 生徒を物のように扱う</p> <p>33. 生徒関係×モラル 教頭 (男性) が3年間で3人以上の生徒と不倫をして、そのうち一人と結婚する</p> <p>35. 生徒関係×生徒関係 生徒の声に耳を傾けない 主将により強い口調で責める (部活指導)</p> <p>38. 社会性×モラル わいせつ行為をする 生徒へセクハラ行為がある 生徒へのわいせつ行為がある (予備校・年配の男性講師)</p> <p>45. 性質×性質 「出来の悪い先生」として生徒や他の先生に有名で、好かれていない</p>	<p>5. 暴力×生徒関係 生徒を殴る (部活指導) ベンチを投げたり、試合中には背負い投げ、蹴りを入れる (部活指導・サッカー部) 3年間を通して生徒を7回坊主にする</p> <p>18. 教科指導×性質 声が小さくて授業が成立しない</p> <p>19. 教科指導×人格 気分屋でイライラしている時と気分が良い時の差が激しい (英語・女性) 気分が宿題を増やす (英語・女性) 気分が悪い時は生徒からの正答も誤答とする (英語・女性) 好きなクラスへの小テストはヒントが多く、ほぼ答えのものもある (英語・女性) 質問をするように言い、質問した生徒に対しては「こんなこともわからないのか」と言う 感情論ばかり話、授業が進まない</p> <p>22. 教科指導×生徒関係 生徒の回答が自分の解釈と異なると完全否定、その事を引きずる、口が悪くなる (英語) 常に黒板に向かって話し、生徒の理解度は無視する</p> <p>24. 教科指導×教科指導 数学Ⅲを指導出来ない (数学) 現代訳をするのみ (古典) 「物理専門だが、中学で教えていたから生物も出来るけど質問はしないで。」と言う (生物)</p> <p>32. 生徒関係×人格 大会で負けた時、他の部員全員の前で「お前のせいで負けたんだ。」と怒り続ける 差別的である 人権に関わる言動をする 生徒に対して高圧的である 生徒に対して自分の主観でのみ物事を語る 生徒が嫌がるいじり方をする 頭ごなしに怒り、論理的な叱り方が出来ない 特定の生徒を敵対視する 生徒と意思の共有が出来ない・聞き入れない 生徒に無関心である 中途半端に怒る 生徒を責める 生徒によって評価や態度を变える</p> <p>33. 生徒関係×モラル 生徒の手を持って筆法を指導する (部活指導・書道部)</p> <p>37. 社会性×人格 コミュニケーションが不得意である 人を見下しているような態度をとる</p> <p>43. 人格×性質 生徒を注意出来ないことから、生徒になめられる 同僚の教師から馬鹿にされ、会議でも発言を軽視されることにより生徒から同情されている 教師である前に、人として尊敬されない人である 授業の開始・終了時刻にはルーズだが、退勤時間には正確である</p> <p>45. 性質×性質 なまりがひどすぎる</p>

るものが7要因、教科指導や学級運営に関連するものも7要因と多かった（重複あり）。

中学校や高校での未認定事例では、中学校で5.暴力×生徒関係、7.暴力×教科指導、9.暴力×暴力、11.暴言×人格、12.暴言×モラル、14.暴言×生徒関係、19.教科指導×人格、22.教科指導×生徒関係、24.教科指導×教科指導、26.学級運営×人格、32.生徒関係×人格、33.生徒関係×モラル、42.モラル×モラル、45.性質×性質の14要因が該当した。暴力や暴言に関連するものが6要因、教科指導に関連するものが4要因（重複あり）であった。

高校では、5.暴力×生徒関係、8.暴力×暴言、18.教科指導×性質、19.教科指導×人格、22.教科指導×生徒関係、23.教科指導×学級運営、24.教科指導×教科指導、29.学級運営×生徒関係、32.生徒関係×人格、33.生徒関係×モラル、35.生徒関係×生徒関係、37.社会性×人格、38.社会性×モラル、44.人格×人格、45.性質×性質の15要因が該当した。暴力や暴言に関連するものは2要因と大幅に減少したが、教科指導や学級経営に関連するものが6要因、生徒指導や生徒との人間関係（社会性）に関連するものが8要因（重複あり）となった。

5. 考察

1) 小学校における未認定事例データからうかがわれる傾向

Table 4 に小学校における未認定事例を思われるケースを列挙したが、対象が小学生（弱者）であることもあり、教師の暴力行為や暴言行為と関連する事例が多かった。直接暴力行為に至らなくても、『児童の注目を引くため、机を蹴り上げる』（2.暴力×人格）とか『ペーパーナイフを児童の首元にあてる』（4.暴力×社会性）、『回答することが出来なかった児童に対して「馬鹿じゃないのか」

と言う』（16.暴言×教科指導）等の威嚇行為も散見され、パワーハラスメント的行動が多いことも特徴であろう。後述するが、中学校以降でも暴力や暴言行為は見受けられるが、それはほとんどが体罰とリンクした部活場面であり、小学校の暴力や暴言行為とは質的に異なるものと思われる。一方、教科指導に関する事例では、『一方的な授業をする（板書のみ・質問は受け付けない）』（24.教科指導×教科指導）といった授業のやり方や指導そのものについての言及はあったものの、ほとんどは『学校に来なくなり、授業進度が遅れる』や『授業終了20分前に入室する』（ともに18.教科指導×性質）、『私語がうるさい児童を注意しない』（23.教科指導×学級運営）、『回答することが出来なかった児童に対して「馬鹿じゃないのか」と言う』（16.暴言×教科指導）など、教科教育法（教授法）や指導法といった専門的なテクニカルな要因ではない教員側の資質や素因を疑わせる要因によるものが多いようである。

また、えこひいきと思われる行動や感情的な行動についても事例としてあげている場合が多かった。えこひいき現象としては、『私語がうるさい児童を注意しない』（23.教科指導×学級運営）や『転校してきた児童に対して、クラスに馴染めないのはその生徒のせいだと言う』、『特定の女子児童を気に入る、テスト回収（終了時刻）もその児童に合わせる（小6担任）』、『ひいきを児童に指摘され、それを他の児童によるいじめと捉え、その児童に謝罪をさせた』、『嫌いな児童に廊下に出るように指示し、授業も廊下から受けさせる（3・4年担任）』、『嫌いな児童のいる班は掃除や不必要な反省文を書かせる（3・4年担任）』（ともに29.学級運営×生徒関係）、『お気に入りの児童には甘く、そうではない児童には厳しくする』、『差別する』、『男女差別をする（50代・女性）』、『えこひいきをする』、『男子に厳しく、女子に甘い』（ともに32.

生徒関係×人格)など多数の事例が指摘されている。暴力や暴言を除く感情的行動でも『大声で怒鳴る』、『気分によって態度が変わる』、『児童を叱るのではなく、児童に怒る』(ともに32.生徒関係×人格)や『気分屋である』、『人によって態度を変える』、『感情的になる』(ともに44.人格×人格)などがあげられている。えこひいき現象とみられるものや感情的行動については、必ずしも客観的な判断ができるものではなく、教師側の意図していない行動やえこひいき現象や感情的行動と児童の目に映るケースも充分考えられる。しかしながら、小学校教諭としては、自分の言動が自分の意図しないえこひいき現象や感情的行動として児童や保護者に間違っ理解されないように常日頃から十分に意識をして

おく必要はあるであろう。平成17年の中教審答申「あるべき教師像」⁴⁾では、指導改善を必要とする教員の主な特徴として、指示等の一貫性のなさをあげており、児童への対応に一貫性を欠く場合は、児童にとってはえこひいき現象や感情的行動と見えてしまうことに留意しておくべきである。

2) 中学校や高校での未認定事例と比較した小学校未認定事例の傾向

小学校における未認定事例の特徴を考察するため、小学校および中学校、高校の未認定事例データを該当する要因別にそれぞれ Table 7 と table 8, 9 に示した。視覚的に比較提示することで、小学校における未認定事例についてその特徴を考察することとする。

Table 7 小学校で該当する要因

	暴力	暴言	教科指導	学級運営	生徒関係	社会性	モラル	人格	性質
性質			18.教科指導×性質					43.人格×性質	
人格	2.暴力×人格			26.学級運営×人格	32.生徒関係×人格			44.人格×人格	
モラル					33.生徒関係×モラル				
社会性	4.暴力×社会性								
生徒関係	5.暴力×生徒関係	14.暴言×生徒関係		29.学級運営×生徒関係					
学級運営	6.暴力×学級運営		23.教科指導×学級運営	30.学級運営×学級運営					
教科指導		16.暴言×教科指導	24.教科指導×教科指導						
暴言		17.暴言×暴言							
暴力									

Table 8 中学校で該当する要因

	暴力	暴言	教科指導	学級運営	生徒関係	社会性	モラル	人格	性質
性質									45.性質×性質
人格		11.暴言×人格	19.教科指導×人格	26.学級運営×人格	32.生徒関係×人格				
モラル		12.暴言×モラル			33.生徒関係×モラル		42.モラル×モラル		
社会性									
生徒関係	5.暴力×生徒関係	14.暴言×生徒関係	22.教科指導×生徒関係						
学級運営									
教科指導	7.暴力×教科指導		24.教科指導×教科指導						
暴言									
暴力	9.暴力×暴力								

Table 9 高校で該当する要因

	暴力	暴言	教科指導	学級運営	生徒関係	社会性	モラル	人格	性質
性質			18.教科指導×性質						45.性質×性質
人格			19.教科指導×人格		32.生徒関係×人格	37.社会性×人格		44.人格×人格	
モラル					33.生徒関係×モラル	38.社会性×モラル			
社会性									
生徒関係	5.暴力×生徒関係		22.教科指導×生徒関係	29.学級運営×生徒関係	35.生徒関係×生徒関係				
学級運営			23.教科指導×学級運営						
教科指導			24.教科指導×教科指導						
暴言	8.暴力×暴言								
暴力									

Table 7 と Table 8, 9 を比較すると、前述のように、小学校教諭の場合暴力や暴言などの要因に分類される事例が多いように思われる。中学校や高校でも暴力や暴言要因の事例が散見されるが、それらの多くは部活動時に発生しているものである (Table 5, 6)。例えば、『すごく小さなことでありえないくらい怒鳴り、暴言を吐く (吹奏学部副顧問・男性)』(中学校 12. 暴言×モラル) や『体罰を加える、体罰 (暴力を振るう・体を強く押す・殴る) をする (ともに部活指導)』(中学校 5. 暴力×生徒関係), 『言葉の暴力をする (部活指導)』(高校 8. 暴力×暴言), 『生徒を殴る (部活指導), ベンチを投げたり, 試合中には背負い投げ, 蹴りを入れる (部活指導・サッカー部)』(高校 ともに 5. 暴力×生徒関係) などである。中学校, 高校の場合, 生徒の体格も向上し, 小学校時代によく見受けられる教諭>児童といった力学が消えつつある年代では, 通常の教育活動では暴言や暴力的要因が減少していき, 一部部活動等での教諭 (監督, 顧問) > 生徒という厳然たる上下関係の構築された環境において指摘されるような事例が発生しているように思われる。

一方, 教科指導については事例数としては小学校と中学校, 高校とで大きな差がないように見えるが, 内容を比較分析してみると中学校や高校など年齢が上がるにつれ, 教科に関するより高い専門性を担保できているかどうかが問われているようである。例えば, 小学校における教科指導要因での事例では, 前述のように教授法や指導法といったより専門性が求められる内容ではないことに対して, 中学校や高校では教授法や指導法といった専門性に対するかなり辛辣な事例が示されている (Table 5, 6)。いくつか挙げてみると中学校では, 『無言で多量の板書を行い, 板書をしている生徒を無視し, 説明を始める』や『実力がつかず, 模試で点数がとれない』,

『授業がわかりにくい』, 『教え方が下手である』, 『生徒のレベルに合った授業が出来ない』, 『ALT と英会話が成立しない (英語)』, 『教科に対する知識がない』, 『独りよがりな授業をする』, 『間違っことを教える』, 『授業がわかりにくい』, 『指導力不足である (英語)』, 『説明の内容が薄い』, 『雑談で授業を潰す』 (24. 教科指導×教科指導) などである。教科毎の専門性を求められる中学校では当然の事例であると思われるが, これは高校ではさらに辛辣な事例となっている。『指導力不足である (英語・50代男性)』, 『文法の説明がない (英語・50代男性)』, 『偏差値の異なる以前勤務していた高校の授業をそのままする』, 『授業のレベル設定が出来ない』, 『有料で開講した講習も自習や休講にし, 振り替えもしない』, 『授業がわかりにくい (化学Ⅱ)』, 『ワークの解答と異なる誤答を板書し, 生徒が指摘するも, 答えが導き出せない (化学Ⅱ)』, 『質問に対する答えがいつも返ってこない (英語)』, 『指導内容がめっちゃくちゃでいつも生徒に指摘されている (英語)』, 『意味のないことを語り, 意味のない授業を展開する (英語)』, 『教科書をただ読み, 質問は受け付けない』, 『数学Ⅲを指導出来ない (数学)』, 『現代訳をするのみ (古典)』 (24. 教科指導×教科指導) 等が事例として挙げられているが, 当然のことながら小学校における教科指導とは質的に全く異なるものであることは明白であろう。

山本ら⁵⁾は, 指導主事や学校長などへの面接調査から『指導力不足教員に認定されないが, 指導力が不足しており問題となる教員が, 1つの学校に数名 (学校の規模によるが平均2人程度) 存在する』ことを指摘しており, 指導力が不足している教員に足りない力として①教科指導力, ②コミュニケーション能力, ③教員間の協調性, ④その他を挙げている。本研究における未認定事例分析では, 小学校で顕著であった暴言や暴力要因となる

ケースは、まさに山本らの指摘する②コミュニケーション能力を示していると思われる。山本らは、このコミュニケーション能力を、『児童・生徒の現状を把握するためには、不可欠な資質であり、相手を包み込む対話が大切である。教員の思いを的確に伝えるためのコミュニケーション能力と、児童・生徒の思いを引き出すコミュニケーション能力が求められる』としており、暴言や暴力等の教員側からの一方的な権力行使ともとれる力学では望ましいコミュニケーション関係が構築できていないことは明らかである。特に、児童との対話が求められている小学校では、このようなコミュニケーション能力に立脚した要因において十分でないパフォーマンスがみられた場合に、指導力が不足している教諭とみられるのであろう。このように、中学校や高校と比較した場合、小学校の教諭にはコミュニケーション能力に立脚した児童への対応において、指導力不足あるいは指導力不足未認定事例となるケースが多い。

3) 小学校における指導力不足教員問題

管理職、特に小学校長を対象にした質問調査の結果、田中ら⁶⁾は指導力が不足していると思われる小学校教員について、専門性と社会性および感性の3側面から分析を試みている。中でも社会性については、『教育的愛情を大切にしているか』や『受容的・共感的に指導し信頼を作る』要因を重視している。教育的愛情や共感性などは、学校教諭、特に小学校教諭には必然といって良いぐらいの求められる資質や能力と言えるが、Table 4にみる限り教科指導関連要因も含めて、未認定事例(指導力不足が疑われる事例)についてはこれらの不十分さが原因ではないか、と思われる。教育的愛情や受容的共感性などは、コミュニケーション能力とも密接に関連するものであり、やはり小学校における未認定事例の主たる要因となっている。

しかし一方、寺嶋⁷⁾は、未認定事例を含む指導が不適切である教諭について、その実態を次の3点にまとめている。①専門性や社会性が不足していたり、教員としての意欲や熱意に欠けていたりするために、指導力が発揮できない教員、②服務面や日頃の言動に著しい課題があり、再三の指導にもかかわらず、改善が見られない教員、③精神疾患等により、職務の遂行に支障があると思われる教員、である。小学校に限らず学校現場での教諭の負担感を指摘する研究や報道が多くなされている昨今では、単に教諭個人の資質や能力(コミュニケーション能力や教育的愛情、受容的共感性等)に指導力不足のすべてを起因させるべきではなく、一定数の精神疾患等による職務遂行に困難を抱えている教諭が存在することを我々は認識すべきであり、教諭のメンタルヘルス面にも配慮した学校経営が求められている。

6. まとめにかえて(今後の課題)

筆者は、大学において教員養成課程を担当している。それ故、将来教員になることを踏まえて、学生時代にどのような学びや経験をさせることが良いのか、どのような教育カリキュラムが必要なのか、講義や授業内容にどのような内容を盛り込むことが良いのか、日々自問自答している。教育実習以外に、出来るだけ若い学年のうちから教育現場を体験させるインターンシップやボランティアなども重要視している。しかし、我々大学において教職課程を担当している教員に求められていることは、我々教員自らが学生達と豊かなコミュニケーションを交わし、学生達に対して受容的かつ共感的に接することではないだろうか。我々教員自身が、授業の中で教育の素晴らしさや教育臨床の尊さ(もちろん大変さも)をいきいきと学生に語りかけ、相互方向性のある授業展開により学生との共感的関係を豊か

に構築していることが求められているのではないかと考えている。

『教育は人なり』とは、使い古された、場合によれば陳腐な響きをもって受け入れられるかもしれない言葉だが、本稿をまとめるにあたって、今後の課題として重々肝に銘じておきたい。

文献

- 1) 土屋基規 (1988) : 教師の免許と研修はどう変わる. 労働旬報社.
- 2) 山本利一, 祐安裕美, 牧野亮哉 (2004) : 新採用教員が抱える教科指導の課題点と効果的な支援の在り方. 埼玉大学紀要教育学部, 第53号第1輯, 21-27.
- 3) 田中健一, 関口義一 (2006) : 初等教育における指導不足教員の改善に関する研究. 日本社会情報学会全国大会研究発表論文集, 第21号, 54-57.
- 4) 中央教育審議会答申 (2005) : あるべき教師像.
- 5) 山本利一, 木戸啓絵 (2006) : 指導力不足教員問題に関する一考察. 埼玉大学紀要教育学部, 第55号第1巻, 23-30.
- 6) 田中健一, 関口義一 (2006) : 初等教育における指導不足教員の改善に関する研究. 日本社会情報学会全国大会研究発表論文集, 第21号, 54-57.
- 7) 寺嶋敏 (2008) : 指導が不適切である教諭等に関する考察. 奈良県立教育研究所研究紀要, 第16号, 12-18.

